

無 農 薬 の 悲 劇

宇都宮大学 雑草防除研究施設長 近内誠登

農業をめぐる問題がマスコミによって誇張宣伝され、農業諸悪説が尾ヒレをつけて一人歩きしている。何か戦争中の大本営発表でも聞いているような、一方的情報による煽動的要素を感じてならない。この辺で全国民手取り除草による自給自足をしてみてもはどうだろうか。

生産現場を知らない消費者やマスコミが、農業経営に口出ししているもので、「農民は昔に戻って過重労働に耐えるべきだ」とする声が聞こえてくる。それは丁度、学校教育に父兄が深入りし、方針を骨抜きにして暴力教室を生む現象と相通ずるものがある。

ここで、除草剤を使わなかったために大変な悲劇となった事例を紹介しよう。

今から3年ほど前、栃木県那須地方の牧草地で、カヤツリグサが発生し、いくら除草剤を使っても毎年増えつづけているとして、酪農試験場の技師がそのカヤツリグサを持ってきた。一見、畑地に生えるカヤツリグサの形状と変った所がない。農家の人は、水田のミズガヤツリが丘に上ったのではと話しているという。そこで現場に向い、スコップで根を調べたところ、トウモロコシ種子大の塊茎がわんさと出てきた。これはまぎれもなくキハマスゲである。これまで日本では自生の報告がなく、もっぱら北米を中心に発生している最大害草である。

わが国在来のハマスゲ（香附子、Purple

nutsedge）は寒さに弱く、茨城県が北限とされ、栃木県以北には発生していない。キハマスゲ（Yellow nutsedge、花が黄色）は、低温に強く乾燥に耐えることから北米、アフリカの乾燥地帯に発生し、ホルム氏は世界10大害草のトップにあげている。

これがどうして那須地方に定着したのだろうか。農家の話では5～6年前から散見され、今の様な過密繁茂になったという。発生面積は約10ヘクタールで那須地方牧野の10%以下と考えられる。

キハマスゲの種子または塊茎が侵入したことになるが、詳しく調べてみると輸入干草にキハマスゲの結実個体が夥だしく混入しており、その種子は発芽率10%を示し、これが侵入経路であることをつきとめた。ところが輸入干草は全畜産農家で使用しているが、キハマスゲの発生は数戸の農家に限定されている。その解答はすぐに判明した。つまりトウモロコシの播種後に土壌処理剤（アトラジン+アラクロール）を使用している圃場では発生していないことである。キハマスゲの種子は土壌処理剤には極めて弱いが、一旦発芽して塊茎を形成すると、その防除は不可能に近いことを証明したものである。土壌処理剤の省略が外国の強害雑草の発生を招き、ついには荒地として放棄寸前まで追い込まれている。土壌処理剤を使わなかった精農家でその

被害が大きいという皮肉な現象である。

キハマスゲは草丈120cm, 1㎡当り500~2,000本, 1個の塊茎から200~300個(年間)の新塊茎を作り, 地下50cm迄分布する。現在ベンタゾンとホルモン剤の混合処理を行っているが, 繁茂密度は年々高くなっている。非選択型除草剤でも根絶することがない。何か特殊繁殖戦略を備えているためであろう。4ヘクタールの牧草地全面にキハマスゲの発生したある農家は, グラスジンD(10アール3,000円)を12万円分毎年使っているが, 増えつづける雑草に頭を痛め, 塊茎がガンに効くと宣伝してくれればすぐになくなるのだが, と苦笑していた。那須地方は土の透水性がよく, 昼夜の温度較差が大きく, 大陸性気候に類似している。輸入干草は那須地方に限ったことでなく, 他地域でも問題になっていい筈である。

現在, 兵庫, 京都, 富山の一部でキハマスゲが発生しているとの報告を受けているが, 読者の中でキハマスゲの発生を見聞されている方がいれば, 是非御連絡をお願いします。

ごく最近, 牧草地にイチビ(北米の害草)が発生し, 牛が下痢したとの連絡があったが, この様な外来侵入雑草の防御手段として, 種子発芽を止める土壌処理剤の徹底使用が望まれる。国際交流が盛んになり, 原料輸入が増加すると, いわゆる脚荷雑草の侵入も後をたたない。その対応として農耕地では発芽防止策としての水際作戦を構築する必要がある。

除草剤は農業にとって不可欠手段であり, 農産物の安定生産とコストダウンを図れる農業資材として使用されている。もし除草剤(他農薬

を含めて)の使用を否定するならば, 消費者は手取除草の代価を払う義務がある。

マスコミは農薬のマイナス(であろう)面を指摘し, 農薬無用のPRを行っているが, そのプラス面にはふれず, まして農薬に代る代替手段の提示もないままの報道は, 全体像を見ることが失った嘆かわしい現象である。

いま日本は, 世界に冠たる教育立国であることは, 等しく他国が認めるところである。なのになぜ, マスコミの報道を頭から信じて疑わないのだろうか。これは明らかに科学的判断力の欠落である。何か流言飛語を安易に受け入れる素地が, 日本人の中にあるような気がしてならない。どうも日本人は物事の判断を減点方式で決めているようである。つまり99%有用なものでも, 1%のマイナスがあればこれを誇張してつぶしていくもので, ちょうど子供の教育で5科目中4科目が100点であっても, 1科目が60点であれば, これを指摘し, 勉強ができないといってその子の伸びる芽を摘んでいく, エゴの社会を作っているためであろう。

物事すべてプラス面とマイナス面がある。農薬についても, プラス面は計り知れないものがあるが, この面は伏せてマイナス面だけの強調と同調は, 重要な社会教育の役割をもってマスコミの公平さを欠く姿である。

要は, 人間生活を取りまく物の, 良い面と悪い面を公平に判断し, 専門家の意見を充分にとり入れた「テクノロジーアセスメント」に根ざした報道と, 適正に判断できる読者の意識向上が求められる。